

# そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



「僕もしたいねん。貸してよー！」

～トラブルは人とのかかわりを楽しむためのチャンス～



12月13日(水)、3歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

ハンバーガーやジュース、ケーキ、お弁当などの食べ物をつくって遊ぶ子どもたちがいました。そこには、レジヤメニュー表もありお店屋さんもできる環境になっていました。

A(客)「すみませーん。いちごジュースください」「ピンクのストローで！」

B(店や)「わかりました～」「ピンクのストローはどこかな～」(あっ、あった！)

「ピンクのストローはありましたけど、いちごジュースは売り切れです」

A(客)「じゃあ、何のジュースならありますか？」

B(店や)「みかんならありますよ」

A(客)「じゃあ、みかんジュースでいいです」

B(店や)「はい、どうぞ！」

また、違う子どもがお客さんになってやってきました。

C(客)「すみませーん」「ハンバーガーとポテトのセットでおもちゃもつけてください」

D(店や)「あ～、おもちゃは売り切れてます。すみませんね～」

E(店や)「ナゲットはいりますか？」 C(客)「はい。お願いします」

E(店や)「今、つくりますから、ちょっとお待ちください」

～DとEが、フライパンでナゲットをつくりながら～

D(店や)「僕にもやらせて!」「そのソース貸して!」

E(店や)「今、使ってるから無理」

D(店や)「ちょっとだけ貸してやー。僕もソース使いたいねん」

E(店や)「・・・」(ナゲットを炒めてソースをかける)

D(店や)「貸して!」(Eが使っているソースを無理に取ろうとする)

E(店や)「もう!!待ってって言うてるやろ!」



どちらも、友だちとの会話を通したやりとりがどんどん繰り返り広がり、遊びが盛り上がっていました。その言葉選びは、自分が経験したことや身近な大人の真似からです。遊びを楽しむ中で、こんなことを言ったら友だちはどんな反応をするだろうか、どんな言葉が返ってくるだろうか、と、わくわくしながらやりとりの言葉を選んだり考えたりしているようにも感じました。



また、友だちとのかかわりが増えてくると「僕もそれしたい!」「貸してほしい!」など、トラブルも多くなる時期でもあります。顔を見合わせて笑い合っているかと思えば、思いの違いで言い合いになることもよくあります。それぞれの思いを受けとめながら、納得いく方法を一緒に考え、再び笑顔で遊び出せるように導く保育者のかかわりも特にこの時期は重要な役割となります。トラブルを通して、自分の思いを主張すること、相手にも思いがあること、自分の思いと相手の思いに折り合いをつけることなどを学ぶとともに、人とのかかわりの中で社会性も身につけていきます。

『トラブル』は成長のチャンスであると捉え、友だちとかわって遊ぶことが大好きになる集団づくりの根っこを育てていきたいと思いました。